

2012 年春号 研究室だより

卒業生、修了生の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。同窓会員の皆様に、2011 年度の西洋史学研究室の近況をご報告させていただきます。

まずは研究室の授業内容について報告いたします。研究室の専任教員である神寶秀夫教授（ドイツ中・近世史）、山内昭人教授（インタナショナル史）、岡崎敦教授（フランス中世史）の三名の教員が、各学生の多様な関心に応じた指導に尽力されています。また非常勤講師として、昨年度から九州工業大学の水井万里子先生（近世イングランド史）、および別府大学の池口守先生（古代ローマ史）にご出講を頂いております。また後期は、山内先生がサバティカルのため、下関市立大学の高田実先生（イギリス近代史）に講義に来て頂きました。2011 年 12 月には集中講義として、お茶の水女子大学から新井由紀夫先生（中世イングランド史）をお招きしました。

次に研究室のメンバーの動きについて紹介いたします。2011 年 4 月には新たに二年生の赤塚翼くん、仁階堂翔太くん、松木美加さんの 3 名が研究室の一員として加わり、大学院修士課程には、慶応義塾大学より白浜充くん（シオニズム史）、内部進学として陣内力（イタリア現代史）、竹之内理沙（フランス中世史）が進学しました。よって 2011 年度の研究室の構成員は、学部生 12 人、院生 6 人の計 18 人となりました。昨年より人数が減ったものの、全員で研究室行事や勉学に取り組み、団結力の深まった一年となりました。

大学院においては修士 2 年の高津智子さん（欧州統合史）が 10 月に広島史学研究大会西洋史部会において初期の欧州統合ネットワークについて学会報告を行い、現在修士論文作成に取り組んでいます。また博士後期課程では、博士 3 年の大浜聖香子さん（フランス中世史）が、来年の留学に向けて準備をしながら、現在は論文の作成に勤しんでいます。同じく博士 3 年の法花津晃さん（フランス中世史）は、5 月にワークショップ西洋史・大阪（於大阪大学）、6 月に九州歴史学研究会例会（西南学院大学）でのそれぞれ報告を終え、論文執筆や研究に励み、2011 年秋からは、留学のため、フランスのエクス＝アン＝プロヴァンス大学へ向けて出発いたしました。

研究室の年中行事としては、4 月「進学式（専門分野決定式）」、「進学生歓迎コンパ」、5 月、11 月に「卒論構想発表会」、夏休みに「オープンキャンパス」と「合宿旅行」、9 月「進学ガイダンス」、2 月「追い出しコンパ」が行われました。これらの行事は学部 3 年生を中心に他学年の学生や院生が一緒に行っており、研究室の伝統の継承や連帯感の醸造につながっております。

本研究室関係の学会・研究会では、3 月と 10 月に九州西洋史学会、12 月に九州史学会西洋史部会が例年通り開催されました。また科学研究費の助成を受けている「西欧中世史料論研究会」を 11 月と 12 月に行いました。その他ラテン語読書会として「タキトゥスの会」も毎月一回行われており、本年度も多様な学問的催しの場として本研究室が機能しております。このように西洋史学研究室は、九州における西洋史学研究ならびに国際的学術交流

の拠点として、周辺の大学や研究教育機関と連携しつつ、研究教育・社会活動を推進しております。

最後に、皆様方のますますのご健勝とご発展をお祈り申し上げます。

(文責 陣内力、竹之内理沙)

新刊紹介

宮寄麻子『ローマ帝国の食糧供給と政治 ―共和政から帝政へ』九州大学出版会、2011年3月

小山啓子（共著）『フランス史研究入門』山川出版社、2011年11月